

石狩市第4期障がい者計画中間評価のための 団体ヒアリング調査結果報告書

目 次

1 調査の概要	
(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法・実施期間	1
(3) ご協力いただいた団体一覧	1
2 調査結果について	
(1) 障がいのある人への理解の促進、差別の解消、権利擁護の推進について ...	2
(2) 生活環境について	2
(3) 安心・安全について	3
(4) 社会参加について	3
(5) 情報・コミュニケーションについて	4
(6) 行政サービスにおける配慮について	4
(7) 団体活動について	5
(8) そのほかのご意見について.....	5

令和5年6月

石狩市

1 調査の概要

(1) 調査の目的

石狩市障がい者福祉計画策定のため、令和2年度に、障がいのある人の関係団体や支援団体に対して、石狩市の現状や課題、今後の意向を把握し、石狩市の障がい福祉のニーズや課題を整理することを目的としてアンケートを実施しました。計画策定から、3年経過した現時点でアンケートを実施し、特に必要とされているものを中心に中間見直しを行います。

(2) 調査方法・実施期間

- 配布方法 … 郵送、メール、手渡し
- 回収方法 … 郵送、メール、手渡し
- 実施期間 … 令和5年4月28日～5月16日

(3) ご協力いただいた団体一覧

- 石狩大地の会
- 石狩市身体障害者福祉協会
- 特定非営利活動法人石狩聴力障害者協会
- 石狩市視覚障がい者協会瞳会
- 石狩ひまわり手輪の会
- 手話サークル“ミズバショウ”
- 北海道手話通訳問題研究会道央支部「石狩班」
- 要約筆記サークル「そよかぜ」
- 石狩市手をつなぐ育成会
- 石狩市社会福祉協議会
- 石狩朗読ボランティアの会
- 特定非営利活動法人やすみや
- 石狩ふっき会
- P&Aいしかり
- 特定非営利活動法人石狩はまなす館

調査結果について

(1) 障がいのある人への理解の促進、差別解消、権利擁護の推進について

<前回調査のご意見のまとめ>

- 障がいについて理解を深める機会を増やすとともに、障がい者団体の横のつながりも深め、様々な障がいへの理解につなげる取り組みが必要である。

<今回の結果>

① 障がいのある人への理解を深める機会の増加（例：出前講座・講演会）	7
② 障がいのある人を支援する人材の募集、育成への働きかけ	7
③ 障がい者団体同士の横のつながりの場を設ける	1

障がいについての理解を深める機会の増加と障がいのある人を支援する人材の募集・育成が同数で多くなっています。

(2) 生活環境について

<前回調査のご意見のまとめ>

- ヘルプマークなど、障がいのある人への配慮に関する取り組みを効果的に伝える必要がある。
- ハード面のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーを同時に広げることが重要である。

<今回の結果>

① 障がいのある人の生活環境への理解を深める機会の増加	7
② 障がいのある人への配慮に関する取り組み（例：ヘルプマークの周知）	5
③ ハード面でのバリアフリー化（例：スロープや点字ブロック）	2

「障がいのある人の生活環境への理解を深める機会の増加」が多くなっています。また、前回同様ヘルプマークなどの周知についての必要性も求められています。

(3) 安心・安全について

<前回調査のご意見のまとめ>

●避難にためらいを感じることがないように、避難所内で障がいに応じた配慮が得られることが必要である。

<今回の結果>

① 災害時の障がい特性に応じた配慮	8
② 町内会・自治会、民生委員、行政、関係機関との連携	4
③ 災害時の障がいのある人が知りたい情報の周知	3

「災害時の障がい特性に応じた配慮」についての回答は、各障がい分野の団体からありましたが、特に精神障がい関係団体からの回答が多くなっています。

(4) 社会参加について

<前回調査のご意見のまとめ>

●障がいのある人たちが参加しやすいような環境づくりが必要である。
●障がいへの理解促進のためにも、当事者だけでなく、一般市民に参加してもらうための取り組みが必要である。

<今回の結果>

① 障がいのあるなしを問わず参加できる地域交流の機会	7
② 障がいのある人が参加しやすい環境づくり（例：施設利用、交通費助成）	5
③ 障がいのある人が感じる障壁の減少	3

今回調査では、「障がいのあるなしを問わず参加できる地域交流の機会」を求める声が一番多くなっています。各障がい分野の団体から回答をいただいています。

(5) 情報・コミュニケーションについて

<前回調査のご意見のまとめ>

- 市役所からのお知らせなど、できるかぎり情報保障をしてほしい
- 情報が得られないことで孤立しないように、障がい特性に応じた様々な支援が必要である。

<今回の結果>

① 地域でも自然なやりとりができる環境づくり（例：IT技術、AIの活用）	6
② 誰でもわかりやすい情報の発信（例：るびふり、音声対応等）	5
③ 積極的な情報保障（例：地域での見守り、声かけ、サポート）	4

どの項目についても大きな差がなく必要とされている状況です。精神障がい関係団体に関しては、「地域でも自然なやりとりができる環境づくり」が多くなっています。視覚障がい関係団体に関しては、「誰でもわかりやすい情報の発信」が多くなっています。

(6) 行政サービスにおける配慮について

<前回調査のご意見のまとめ>

- 障がい特性に応じた対応ができるよう、市の担当職員は研修を受講することが必要である。

<今回の結果>

① スペシャリスト（専門職）の配置	6
② 行政職員との意見交換の機会を設ける	6
③ 手続きの簡略化（例：電子申請等）	3

「スペシャリスト(専門職)の配置」については、聴覚障がい者支援団体3団体、知的障がい、精神障がい関連団体3団体にご回答いただきました。同数で多かった「行政職員との意見交換の機会を設ける」については、各障がい分野の団体から回答をいただいています。

(7) 団体活動について

<前回のご意見>

- 障がいのある人への支援活動が継続できる環境づくりが必要である。

<今回の結果>

① 次の世代のボランティア、会員につなぐための方策	9
② 活動しやすい環境整備	5
③ 活動の周知方法	1

「次の世代のボランティア、会員につなぐための方策」について多くの団体が必要と回答されています。前回アンケートでも会員の高齢化や新規の会員募集をしても応募が少ない等の声がありました。設問1で回答の多かった「障がいのある人を支援する人材の募集・育成」とも関連し、各障がい分野の団体共通の課題となっています。

(8) そのほかのご意見について

- ・会の活動が活発に継続されるように若い会員や、支援者が増えてくれる取り組みが必要と思います。
- ・災害時、避難所まで安全に移動できる道の確保（下肢に障がいのある者にとって徒歩移動は困難）
- ・当団体は当事者団体ではなく支援団体のため、質問の意図がよくわからず、回答に悩みました。
当団体に情報・コミュニケーション条例検討会の傍聴をした役員がおり、「健常者が聞いていても内容がよくわからない」との事でした。前後の流れがわからないせいもあると思いますが、質問、例の表記等、もう少しわかり易いと助かります。
- ・ろう者の言語である手話を通訳する市の専任手話通訳者や登録手話通訳者の業務として、市民の個人通訳だけではなく、イベントや出前講座、議会等々の派遣数は増加しており、当会の会員は、いかに自分の健康を守るかといったことが常の話題となっています。
市の通訳者の年齢は 50 歳台の女性が最も多く、これからも増加する手話通訳派遣の状況を考えますと、今後の人材育成と通訳者の健康管理、身分保障等については大きな課題であり、行政も一緒に取り組んでいきたい課題と考えております。

ろう者の情報保証やコミュニケーション支援は、ろう者の命や安全、権利を守るとても重要なことですので、ろう者と共に手話通訳者に関する課題につきましても、よろしくお願いいたします。

・ようやく、コロナ渦の行動制限が、緩和され、人々が、活発に動き始めました。一方障がい者の方々はどうでしょうか。

たとえば、視覚障がい者、車いす利用の方々にとって、市役所、りんくる、図書館の周りの道路、内部は、利用しやすく配慮されているのでしょうか。

直接、当事者の方々の要望や意見を聞く機会を設け、改善に努めていただきたいと思います。(先日、HBCテレビで道路の点字ブロックについて放映されて)

我が会は、石狩町福祉部と社会福祉協議会が共催した講習会から設立されました。時代は変わりましたが、市と社協が、連携して障がい者等理解啓発の為の講演会を開催することも不可能ではないと思われまます。

・基本すべての項目は、みな大切な内容と思います。

当団体では、障がいのある人のための権利擁護と地域でのセーフティーネットづくりを目的にこれまで取り組みを進めてきました。

知的障害のある佐賀市の安永健太さん(当時25歳)が2007年9月、警察官に路上で取り押さえられた後、死亡した事件がありました。警察官がその姿が薬物かアルコール中毒者のように間違えられての悲しい事件です。このことからあらためて石狩市に暮らす障がい児・者が地域の方々に理解されるように、啓発をはじめ、PA活動、トラブルシューター(TS)活動が増々、重要であると考えております。こうした活動が行政をはじめ、社協、教育委員会、民生委員や多くの団体・個人と連携して継続した活動が進められればと思います。

石狩市第4期障がい者計画策定のための団体ヒアリングでは、いろいろと意見を出させていただきました。2年経過して進展していることやさらに課題として残っていることなどがありますが、今後の計画実行に期待すると共に、当団体としても一緒に協力できることがあれば、宜しく申し上げます。